

産地だより 産地に行つて、見て、交流してきました！

コープやまぐちでは、全国の産直生産者さんと組合員さんの交流を続けながら、お互いの信頼関係を築き、商品づくりに励んできました。今回は、10月から11月に訪れた産地について、参加された組合員さんのレポートをご報告します。

コープやまぐちでは「産直三原則」をもとに産直活動を展開しています。

産直三原則

- 産地・生産者が明確です
- 肥育・肥培方法・管理が明確です
- 生産者との交流が行われています



▲このマークが目印です。

桃・大葉

(山口県萩市)

10月7日

有田さんが桃の栽培を始められたのは、今から約40年前。東京ドーム約半分の広さの果樹園で、できるだけ農薬を使わず、土づくりに手間をかけて桃の栽培を続けられています。早くもぎせずに木でじっくり熟させて



▲根の張りも管理された、有田さん自慢の桃園。

糖度を上げ、一番良い状態で出荷されているとのこと。通常の収穫前に100個ほどい



有田さんの桃
※予約販売を5月頃
宅配にて企画予定。



大葉
宅配予定
毎週取扱

有田農園の大葉

は、大葉の花を咲かせて種を採って栽培されています。桃と同じく土づくりに手間をか



▲160センチ以上に育った大葉。

け、水が途切れると病気や虫がつきやすくなるため水やりにも気を遣いながら収穫されます。「一年通して美味しい大葉を届けたい」と有田さん。大葉の旬は夏ですが、生育に時間がかかる冬の寒い時期も、ハウスにつきつきりに対応されています。

元気な土で愛情を込めて作られている桃と大葉。安心安全はもちろんのこと、美味しさと、有田さんの思いを感じながらいただきたいと思います。



▲前列左から2・3番目が有田さんご夫婦。

山川みかん 樺嶋グループ

(福岡県みやま市)

10月26日

生産地は、福岡県と熊本県の県境に位置する、古くからみかんの栽培で有名な町です。「山川みかんの酸味と甘さのバランスは、みかんと生産者の樺嶋さん。秋はかつお節の煮粕や昆布粕、春は米ぬかや魚粕などを混合した肥料を土壌に撒き、樹が土から栄養をしっかりと吸収できる畑づくりをされています。



みかん
宅配予定
1月2回 店舗
取扱い

が美味しいいらしいですよ。ぜひ、チェックしてみてください。

収穫時期の人手不足もある中、農薬の使用も出来るだけ少なく、努力しながら生産を続けていく難しさを語りながら「勉強も楽しいし、こんなにもこだわられるのは利用して下さる組合員さんがいるからです」と言われた樺嶋さんの言葉を、1人でも多くの組合員さんに伝えていきたいと感じました。



▲みかんの洗浄や選別の様子を見学し、箱詰め体験を行いました。

山川みかんは元々小ぶりなみかんですが、今年も天候不順のため、さらに一回り小ぶりな出来栄え(※見学当時)。11月頃から甘みがのってくるそうです。美味しいみかんをお届けできると思うとのことでした。小ぶりで茎が小さいみかん



▲今年の交流会には41名の参加がありました。



▶生産者の樺嶋さん親子



▶収穫作業体験の様子